

## 親子でアウトドア 防災編

### 1 ねらい

- ・防災体験活動を通して、命を守るために必要な知識や技術を身に付ける。
- ・親子のふれあいや参加者相互のふれあいを通して、豊かな心を育む。
- ・「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進する。

### 2 実施日

令和6年10月27日（日）10：00～15：30

### 3 日程

日程	内容
9:30	受付
10:00	開講式
10:30	新聞紙食器づくり、かまどで火おこし、ビニール袋炊飯 昼食（火おこしで温めたカレーを食べよう）
12:30	休憩
13:00	テント設営体験、災害用トイレ組み立て体験、煙ハウス体験、 肱川水域の学習、排水ポンプ車等見学など
15:00	ふりかえり・閉講式
15:30	解散



### 4 活動場所

大洲市防災センター（愛媛県大洲市若宮1869-1）

### 5 参加対象・募集人数

小学1～6年生とその保護者・15組（30名程度）

### 6 参加人数

11家族（25名）

### 7 活動内容

大洲市防災センターを会場として、様々な防災プログラムを体験することができた。

午前中は、屋外にあるベンチ式かまどを使用して防災食づくりに挑戦した。缶詰と米、パスタ、卵を使い、材料を入れた袋を湯煎して、親子丼とツナパスタを作った。また、参加者がマッチを使用して、かまどの火付けを行った。その後、メタルマッチとまいきり式火起こし器を使用して火起こし体験を行った。家族で協力して、火を起こせたときの表情は、喜びと疲労感とともに、火を起こすことの大変さを感じる事ができた。

午後からは大洲市防災センターによるテント設営体験や災害用トイレ組み立て体験、国土交

通省四国地方整備局大洲河川国道事務所による肱川水域の学習や排水ポンプ車体験など、親子で交流しながら様々なプログラムを体験することができた。



## 8 参加者の声

事業後アンケート結果

\*満足：91.0%    \*やや満足：9.0%    \*やや不満：0.0%    \*不満：0.0%

- 食事、テント設営、火起こし、そして、防災の話。全てにおいて子供たちにも取り組みやすいものだった。
- 子供がマッチで火がつけられるとは思わなかった。体験させなければ分からない事もあると思った。
- なかなか触れることの出来ないできない防災用品を実際に使ったり、組み立てる経験が出来た。

様々な防災体験を親子で協力しながら体験をすることにより、楽しみながら知識や技能を身に付けることができた。家に戻った後に、防災食づくりや火を起こす練習などに親子で取り組みたいとの声を聴くことができ、今後につながるいい機会となった。

## 9 事業の成果と課題

大洲市防災センターや国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲地区広域消防事務組合と連携をすることにより、国立大洲青少年交流の家だけでは提供できない充実した防災プログラムの提供ができた。

昨年度、低学年の参加を希望する声があったので、今年度は年齢対象を小学1年生から6年生に幅を広げた結果、定員以上の20家族46名の応募があった。病気等でキャンセルが相次ぎ、11家族での実施となったが、少人数になった分、順番で行う火付け体験や火起こし体験をする時間を増やすことができるなど、防災体験活動を通して、命を守るために必要な知識や技術を身に付けるという目的に近づくことができた。

防災食に関して、試作を行ったうえでの実施であったが、アンケートからお米が硬いとの感想があった。吸水の時間を確保することや袋に入れる空気の量の調整で改善できると考えられるので、次年度は早めに防災食のメニューを決定し、試作を重ね、もう一度作りたいと思うような満足度の高い防災食を参加者と一緒作成できるようにしたい。

(担当：事業推進係員 宮島 淳)